忘れてはならない人がいます

堀内康司展

「敗戦記念日」のあの日俺は孤独だった。
が、運命を拓いていく意欲に満ちていた。

「魚」1961年　油彩、キャンバス　91.0×116.0cm

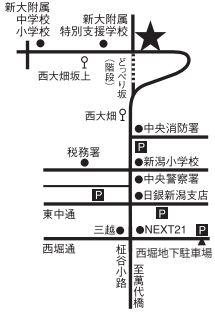
戦争で孤児となり、信州松本で絵を描きはじめた少年は、描くことに没頭し、東京の美術評論家・福島繁太郎から絶大な支援を得、強く、迷いのない線で次々と迫力にあふれた絵を生み出します。街角で見た無名の画家池田満寿夫の絵にほれこみ、池田、真鍋博、靉嘔とグループ「実在者」を結成しますが、その後突如筆を折り、後半生は競馬ライター、美術愛好家として生きました。2011年の没後刊行された画集『堀内康司の遺したもの』から、若き日の輝きに満ちた絵が再評価され始めました。堀内は長野から一番近い海、新潟県の現在の糸魚川市の海岸を何度も訪れ、海辺の風景や魚などをモチーフにした秀作を残しています。これら新潟ゆかりの作品を含む約40点を展示します。

2015年4月17日(金)～5月24日(日)
9時～21時 月曜休館
(5月4日は開館、4月30日、5月7、8日振替休)
会場／砂丘館ギャラリー(蔵)+二階全室
*二階和室会場は市民利用等で見学できない場合があります。
ギャラリートーク　4月25日(土)午後2時～3時30分
(詳細裏面)

主催／砂丘館

砂丘館

日日本銀行新潟支店長寄贈



砂 丘 館

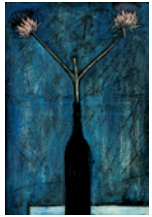
旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1
tel./fax.025-222-2676
sakyukan@bz03.plala.or.jp
指定管理者
新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。

新潟駅からのバス:西循環（12・12A系統）又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分

post card



会期中の催し

ギャラリートーク「堀内康司を語る」
4月25日(土) 午後2時～3時30分

お話：芝野敬通
（画集『堀内康司の遺したもの』求龍堂2013年 編集者）
聞き手：大倉　宏（砂丘館館長）
参加費：500円（申込不要、直接会場へ）

「無題（花）」1958年 油彩、キャンバス 72.0×50.0cm

堀内康司（ほりうち こうじ）：1932年東京生まれ。幼いころ父が戦死、母は病死し、孤児となる。両親の故郷信州で絵を描き始める。松本で宮坂勝のサロンに参加、草間彌生らとグループ展に参加し、初個展も開く。1952、53年国画会新人賞を連続受賞し、東京に行き、美術評論家でフォルム画廊主の福島繁太郎の支援を受け、証券会社で働きながら創作する。古書店の壁に掛かっていた池田満寿夫の絵に感激し、グループ「実在者」を池田、真鍋博、靉嘔と結成するが2年で解散。その後数度の個展を開くが、誰にも理由を告げずに絵筆を折る。その後は岩波書店の「世界」をはじめとする雑誌のカット制作、競馬記者、写真や挿絵の仕事をしながら、美術愛好家として浜田知明、藤牧義夫らのほか晩年は若い画家たちの絵を購入するなど、制作を支援した。2011年逝去。2013年画集『堀内康司の遺したもの』刊行。同年東京のフォルム画廊、ギャラリー川船、2014年には東御市梅野絵画記念館で回顧展が開催される。

私たちは砂丘館の自主事業を応援しています。

新潟日産自動車株式会社　雪国あられ 株式会社　NSGグループ　株式会社 ナレッジライフ
株式会社 新潟ビルサービス　郷土の文化に親しむ会　藤田金屬　創業明治11年 丸屋本店